

平成 30 年度第 1 回 鎌倉市障害者福祉計画推進委員会 会議結果概要

開催日時	平成 30 年 8 月 9 日（木）18 時から 20 時
開催場所	鎌倉市役所 第 3 分庁舎 講堂
出席者	〔推進委員会委員〕 ○11 名出席（4 名欠席：太田委員・中川委員・大津委員・弘中委員） 〔鎌倉市障害者福祉計画推進会議 幹事委員〕 ○6 名出席 〔事務局〕 ○2 名出席 以上 19 名出席 「鎌倉市障害者福祉計画推進委員会 委員名簿」を参照
配布資料	・議事次第 ・委員名簿 ・（資料 1）鎌倉市障害者福祉計画（概要版） ・（資料 2）鎌倉市障害者福祉計画（概要版ルビ付き） ・（資料 3）鎌倉市障害福祉サービス提供実態調査 調査結果報告書 ・（資料 4）平成 29 年度鎌倉市障害者福祉計画推進状況報告書（案） 【当日配布資料】 ・（資料 3 - 1）資料 3 の一部修正箇所 ・（資料 4 - 1）資料 4 の一部修正箇所
会議概要	1. 鎌倉市障害者福祉計画の策定について 事務局より、鎌倉市障害者福祉計画の策定について、資料 1・2・3 及び資料 3 - 1 に基づき、説明。 （委員からの意見等） ・（委員）（資料 3）鎌倉市障害福祉サービス提供実態調査 調査結果報告書について、集計ミスがないかもう一度見直してほしい。この調査では、回答が法人としての意見なのかどうか分からない。本来は、事業所より法人の責任者宛に送るほうが良い。 →（事務局）指摘の通り、事業所単位で行ってしまった。そのため、法人が幾つもの事業所を持っていると、回答が重複してしまうところもあった。また、現場ではよく分からないという意見もあった。集計を見直したい。 ・（委員）実態調査の回収率が 83.2%はすごい。しかし、9 ページの間 9 - 1 では無回答が多く、実態を捉えにくい。無回答について精査すべき。 ・（委員）こういうアンケートは障害者全体向けで障害種別に特化していない。そのため、各障害に特化した実態が全然見えてこない。

会議概要 (続き)	・(委員) 特化した実態を把握したいのでクロス集計をしてほしい。例として、問1・問2では、運営主体別に提供サービス及び年間収支状況がみたい。その他のものに関しては、この会議の後に指摘したい。 ・(委員) この実態調査については、時間をかけて精度の高いものを作り上げ、より具体的な実態が分かると鎌倉市障害者福祉計画にもつながると思う。 2. 平成29年度障害者福祉計画推進状況報告書(案)について 事務局より、平成29年度障害者福祉計画推進状況報告書「以下、報告書」(案)について資料4及び資料4-1に基づき、説明。 (委員からの意見等) ・(委員) 36ページの事業番号1-2-1「障害福祉サービス事業推進」で、移動支援の事業所数が平成28年度から平成29年度にかけて大幅に減少しているが、数字が間違っているのか。もしくは、何か事情があるのか。 →(事務局) 他の個別事業にあわせて、平成29年度から市内事業所のみの記載に変更した。 ・(委員) 移動支援事業では市内事業所で受け入れることが難しい場合には、他市の事業所を利用している実態もあるが、その数は省いているという意味か。 →(事務局) その通りである。 ・(委員) 8ページの「4 精神障害者の状況」では、精神障害者とまとめて捉えず、発達障害・統合失調症・自閉症等それぞれの項目に分けて記載してほしい。 ・(委員) 年齢別の記載では、65歳に達し、来年度に介護保険に切り替える対象者の人数を把握するために「64歳」の枠が必要。学校の場合は、来年度に就学する人数を障害種別に把握したい。 →・(委員) 報告書に数字を入れることで、影響や支障があるのであれば、この委員会の中だけで示してもらってもいい。どう開示するか検討してもらいたい。 ・(事務局) 情報の出し方等についても委員の方と調整して示したい。 ・(委員) 10ページ「7 子供に対する支援の状況」(2)5歳児すこやか相談事業の実施状況で相談内容の内訳を知りたい。 →(事務局) こどもみらい部と調整したい。 ・(委員) 法律に定められているからこの計画を作るのではなく、誰のための何のための計画なのかを考えなくてはならない。 ・(委員) 障害者の就労はとても難しいと感じている。ここでは数字が出ているが、就労できない理由を知りたい。 →・(委員) 企業側は労働時間等も含め、非常に柔軟になってきていて、需要もすごく多い。しかし、マッチングする事業者側が少ない。企業によっては人手不足が問題で要望があっても、紹介できる人がいないというのが実態。出来るだけマッチングできるよう徹底的な支援をし、各施設の方からも援助してもらっている。それと同時に、定着支援に向けても頑張っている。 ・(委員) その供給できない所をどう解決するのが、行政の役割ではないか。
----------------------	---

会議概要 (続き)	・(委員) 今年度、鎌倉市内に医療的ケアが必要な人が利用できる放課後等デイサービスができるという話があったが、現在の状況はどうなっているのか。 ・(委員) 国からは、平成 32 年度に医療ケアのコーディネーターを各自治体に配置していくという指針がでている。他の会議では、来年度に前倒しで配置に向けて何かしないといけないという意見が挙がっているが、鎌倉市としての方向性が何かあれば教えてほしい。 →(事務局) 第 5 期鎌倉市障害者福祉計画の中で平成 30 年度末までに医療的ケア児支援のための関係機関の協議の場を作ることとされているが、今は医療的ケア児の情報をどこも正確に把握してない状況。まず情報を集め、庁内で情報共有を図ったらどうかと検討している。また、発達支援室の行っている発達支援システムの会議や保健福祉事務所の行っている小児慢性医療の会議など既存の会議を活用出来ないかと考えている。 ・(委員) 中学生になると身体も大きくなり、2 階にある事業所を利用することが難しくなった保護者が、新しくできた由比ガ浜の事業所を希望したが、看護師がいなために断られたということだった。必要としている人がいて、要望があるのになぜ(医療型児童発達支援の見込量が) 0 人なのか納得がいかない。 →(事務局) 由比ガ浜の受け入れの件は、鎌倉養護学校のお子さんが利用し始めたという話を聞いている。事業所側からは、車いす用送迎車や看護師の配置等の準備が整っていなかったという話も聞いている。鎌倉市内で医療的ケアが出来る事業所がないので、今後も受け入れを進めてもらえるようこちらから事業所へ働きかけをしていきたい。 ・(委員) 就労移行支援が終わった後の行き先は就労継続支援 A 型・B 型しかない。そこからまた就労することは本当に難しく、実際に就労しようと思っても、なかなか気持ちを持っていけないという実態がある。国のシステム自体おかしい。 →・(委員) 就労移行支援は期間延長を裁量で決める事ができるのでは。 ・(委員) 延長して 3 年にしようという意向はあったが、さらに 1 年延ばした時の就職率がどの程度あるかを国が調べたところ、その 1 年に対してさしたる効果がないということで 2 年になった。ただし、1 年延ばせばなんとかなるかもしれないという見込みが立っているのであれば、1 年延ばすことができる。ここで問題なのは、その判断をどうするかということである。 ・(委員) 一般就労する事によって、財政的にも余裕が出る。福祉費が下がり、税金が徴収できるので率先してやろうという意思を持たないといけない。他市町村でも産業がないもしくは交通の便が悪いとあきらめてしまっている人が多い。三浦市では産業がなく、交通の便も悪いが、親も施設側も一生懸命みんなで働かせよう、働こうという意欲があるので、就労継続支援 B 型の施設からも一般就労に向かっていく。実際、鎌倉市よりも三浦市のほうが就労者は多い。鎌倉市には就労させようという親が少ないとつくづく感じる。 ・(委員) 81 ページ「2 指定障害福祉サービス・障害児通所サービス等の実施状況」で「本市の事業所利用者数」の指す意味が分かりにくい。他市の利用者数も含むのか、あるいは、鎌倉市内在住の利用者数を指すのか分かるようにしてほしい。
----------------------	--

会議概要 (続き)	・(委員) 精神障害者の場合、就労をしてもその人の精神状態によっては続かない場合も多い。その人がやってみようというモチベーションでも、つい無理をしないようにさせてしまう。働かせてあげようという支援する側のモチベーションも必要。 ・(委員) グループホームの不足が問題になっている。精神障害者の場合、親が元気な場合はほとんど同居している。調査結果でもそのまま暮らしたいという意見が多いが、親亡き後は本人に生活スキルもなく、一人では暮らせないので、さらにグループホームが必要になってくるだろう。 ・(委員) 77 ページ「第 4 章 第 4 期鎌倉市障害福祉サービス計画 (2) 入院中の精神障害者の地域生活の移行」で課題や考え方に書いてある通り、精神障害者の理解の促進や基幹相談支援センターの充実を支援してもらいたい。 ・(委員) 精神障害とひとくくりにできないので、一概に精神障害者はこうだと言えない状況がある。課題が多すぎる。 ・(委員) PDCA サイクルの実行とうたっていても、どの評価項目をどうやって評価するのかということは何も書いてない。 ・(委員) アンケート調査は統計学的手法を使わないといけない。今回、無回答が非常に多くなっている理由についても、最低限会議に臨む上で、事務局としてチェックすべき。回答に難しい高度な質問もあると思うが、事務局としての確に答えていかないといけない。会議のあり方というのが問題。毎回同じことを繰り返しているだけで時間が勿体ない。事務局は質問してもはっきり答えられず、何を考えているかも分からない。これからの時代はやはり行政が現場を知って積極的に動いていかないといけない時代だと思う。 ・(委員) 課題がたくさんあり、考えなければいけないこともたくさんあるが、議事の進め方あるいは検討のポイントを絞り込むというのも大事。 ・(委員) 今回の報告書は今までと比べて、非常にうまくまとめられている。課題を踏み込んで書いている。これからの 1 年間で全部を議論はできないので、その中で的確を絞って何の議論をするのか決めなくてはならない。まず 1 つ目は就労、2 つ目は発達障害に関して学校との関係の二つだと思う。PDCA を回す時もターゲットをどこにするかきちんと基準を設けるべき。 →・(委員) PDCA サイクルというのは評価である。全ては無理なので、一番の喫緊の課題を決めて、集中的に議論したい。 ・(事務局) この報告書を作ることが目的ではなく、課題を整理し、その課題に対して議論していくことが目的である。委員から意見をもらい、固めていきたい。 3. その他 ・平成 29 年度障害者福祉計画推進状況報告書 (案) について、メール、FAX、または電話にて意見があれば受け付けたい。 ・平成 30 年第 2 回鎌倉市障害者福祉計画推進委員会を平成 30 年 11 月 27 日 (火) 18 時から開催予定。 以上
----------------------	--